

アジア・ゲートウェイ構想のイメージ（たたき台）

I . アジア・ゲートウェイ構想推進のねらい

～ 今、日本に何が求められているか～

長い停滞のトンネルを抜け出し、未来への展望が開ける中で、「創造と成長」を目指して、世界に開かれた魅力と活力にあふれた「美しい国」を創る。

次の4つの観点からアジア・ゲートウェイ構想を推進。

1 . 発信する日本（日本の魅力、強みを高める）

～日本の「カントリーアイデンティティ」の確認・発信～

- ・ 日本には世界に誇れる自然、歴史、文化、伝統の資源が全国に豊富に存在。これらの魅力や強みを高め、「美しい国、日本」の魅力を世界にアピール。

2 . 開かれたアジアの成長を支える

～日本がアジアや世界にとっての中核となる～

- ・ アジアが「世界の成長センター」として世界経済の発展に貢献するべく、自由と規律のある「開かれたアジア」に向け、日本は責任ある役割を果たすことが必要。
- ・ 企業の経済活動を原動力に、人・モノ・サービス・資金・文化・情報の流れにおいて、世界・アジアの中でしっかりと位置づけを確保することが重要。
- ・ 日本が先行している環境、エネルギー、防災等の分野でもアジアへの貢献が重要。

3 . アジア・世界の成長を日本に取り込む

～「オープン」なくして「成長」なし～

- ・ 日本を「オープン」な経済社会にすることにより、アジア等海外の成長や活力を日本に取り込み、人口減少の局面でも経済成長を実現。
- ・ 日本において、国際的に遜色のない制度改革を進め、世界中の人々から、訪れたい、住みたい、働きたいと思われる協調的で開放的な国づくりに繋げる。

4 . 日本の各地域が直接アジアとつながる

～官民一体となった地域戦略の構築～

- ・ 日本の各地域がそれぞれの資源を活用し、アジアとの交流を深め、その成長や活力を取り込む。魅力と活力ある地域活性化を推進。

II. アジア・ゲートウェイ構想を実現するために必要なこと

《横断的視点》

1. 日本の魅力、強みを高める ～日本らしさを世界に発信する～

国際間の交流の源となる日本文化の再生と創造
 クリエイティブな活動を促進する「日本文化産業戦略」の策定
 国際的な競争力強化を目指した日本ブランドの確立
 日本の金融資産の有効活用 など

【アイデアの例】

デザイン・建築・アニメ・音楽等のコンテンツの海外発信
 食文化、伝統文化等の国際競争力・情報発信力の強化

2. 「開かれたアジア」の成長を支える

～オープンなアジアづくり～

対外経済戦略の強化(WTO, FTA, EPA, ODA等) 双方向のオープンな環境づくり
 会計基準などのビジネス環境や技術、標準、環境、安全等、各分野でのアジア公共財(共通のインフラ)の提供
 営業活動(Doing Business)や投資の環境整備
 環境、エネルギー、防災等日本が先行している分野における協力の推進
 日本とアジア諸国との相互理解・信頼醸成のための情報発信と交流拡大 など

【アイデアの例】

経済連携協定の取組強化、WTOラウンド交渉の早期再開等
 政府による海外進出企業の一層の支援

3. 「オープン」な日本を構築し、新たな創造と成長を目指す

～国内の諸制度の改善・インフラ機能の強化～

場としての日本の魅力を高めるための「オープン」な日本の構築
 国際金融機能の強化など、国内の人・モノ・サービス・資金・文化・情報の流れに関係する諸制度の改善
 利用者の視点に立った、ソフト施策を含めた空港、港湾、道路等のインフラ機能の強化 など

【アイデアの例】

日本国内における国際会議の開催件数の増加（5年以内に5割増）
 国際空港等のインフラ機能の強化
 海外からの投資の倍増（2010年にGDP比倍増）
 世界への情報発信力の強化

4. アジア・ゲートウェイ構想を推進するための地域戦略

～官民が一体となった戦略的な地域活性化～

官民一体となった地域の知恵と工夫を活かした取組により、広く
 アジア・世界を視野に入れた地域の活性化を推進 など

【アイデアの例】

地域の優れた農林水産物や食品の輸出拡大、地域の特色を活かした
 海外からの観光客誘致等

5. アジアで、世界で活躍できる日本に向けて

～人材育成、社会・組織カルチャーの変革～

政府、企業その他の組織、個人の全てのレベルにおいて、アジア・
 世界を意識した人材育成の推進
 アジアにおける機動的な意思決定システムの構築
 社会・組織における行動様式や組織風土の確立 など

【アイデアの例】

国際的に活躍できる人材養成、国際機関への人材派遣の促進（大
 学の国際競争力の強化等）
 外国人受け入れのための担い手支援（地方企業、NPO等）

アジア・ゲートウェイ構想推進のポイント

- あるべき姿だけでなく、できるだけ具体的な内容についても、議論の対象とする。
- 官邸主導により、横断的な視点で課題解決に取り組む。
- また、構想を「画餅」とすることなく、世界の動きを踏まえてスピーディに実効性のある政策として実現するよう、機動的、戦略的に取り組む。